

企画展

クロード・モネ「モンソー公園」(部分) 1876年



IN PRAISE
OF
LIGHTS
AND
SHADOWS

WESTERN PAINTING
OF
SUMITOMO COLLECTION



ジャン＝ポール・ローランス「マルソー将軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち」(部分) 1877年

光陰礼讃

近代日本最初の
洋画コレクション

2023 3.14 TUE → 5.21 SUN

【開館時間】10:00~17:00 *入館は16:30まで 【休館日】月曜日、4月25日(火)

【入館料】一般800円、高大生600円、中学生以下無料

※本展覧会の入場料で青銅器館もご覧いただけます

※20名以上は団体割引20%、障がい者手帳ご呈示の方は介添者1名まで無料

【主催】公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社、京都新聞

【後援】京都市、京都市教育委員会、京博連、公益社団法人京都市観光協会、NHK 京都放送局

同時開催 青銅器館「中国青銅器の時代」

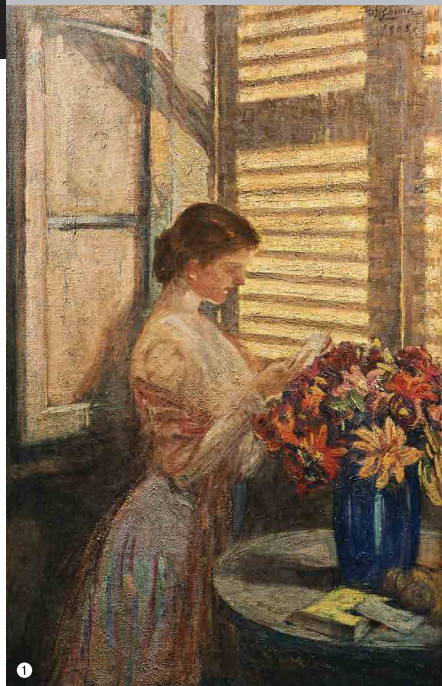


泉屋博古館

SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM

住友コレクションの一角を占める近代洋画は、住友吉左衛門友純(春翠)が明治30年(1897)の欧米視察中のパリで印象派の画家モネの油彩画2点を入手した事に始まります。その一方で、同時代のジャン=ポール・ローランスなどフランス・アカデミーの古典派絵画も収集しました。19世紀末のフランス絵画は、印象派の台頭とともに古典的写実派が次第に衰退していく様相を示すこととなりますが、春翠が収集した洋画コレクションには同時代の印象派と古典派の作品がともに揃って収集されているところに特徴があります。また、明治維新以降の日本において、住友洋画コレクションは他に先駆けた最初の本格的な洋画コレクションでもありました。

本展は、光を追い求めた印象派と陰影表現による実在感を追究した古典派を「光陰」と捉え、この「光陰」二つの流れから滋養を受けて展開した近代洋画の数々を紹介するものです。



①藤島武二《幸ある朝》1908年 ②浅井忠《河畔洋館》1902年
③クロード・モネ《サン=シメオン農場の道》1864年 ④岡田三郎助《五葉蕨》1909年
⑤和田英作《こだま》1903年 ⑥鹿子木孟郎《ノルマンディーの浜》1907年

会期中のイベント (すべて入館料のみでご参加いただけます)

【会場】当館講堂 【定員】 各日40名

予約制(先着順) 受付開始2月24日(金)11:00~ 当館WEBサイトまたは電話075-771-6411にて

特別記念講演会「住友洋画コレクションの特質」

4月22日(土) 14:00~15:30 【講師】 三浦篤氏(東京大学大学院総合文化研究科客員教授、美術史家)

スライド・レクチャー「詳しくすぎる作品解説」

3月25日、4月15日、5月13日(各土) 14:00~15:00 【講師】 野地耕一(泉屋博古館東京・館長)

新型コロナウイルス感染症予防・拡散防止のため、予定を変更・中止する場合がございます。当館のホームページ、Facebook、Twitter等で最新の情報をご確認ください。



MUSEUM
SENRYU OKU

泉屋博古館

〒606-8431京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24 TEL 075-771-6411

【アクセス】 JR・新幹線・近鉄電車【京都駅】/京阪電車【三条駅】から京都市バス5系統
阪急電車【烏丸駅】から 32、203系統 地下鉄烏丸線【丸太町駅】から 93、204系統
●5、93、203、204系統「東天王町」下車、東へ徒歩200メートル
●32系統「宮ノ前町」下車すぐ
地下鉄東西線「蹴上駅」から徒歩約20分